Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS
Vol.19

Contents

巻頭言 ―― 1
2020～2023年度講演会概要 ―― 2
北里大学高等教育開発センター講演会
過年度開催内容一覧 ―― 5
高等教育開発センター活動概要 ―― 6
編集後記 ―― 7

巻　頭　言

廃 刊 の 辞

高等教育開発センター長　江川　徹

高等教育開発センターニュース最終号をお届けします。新型コロナウイルス感染症の影響もあって，前号（Vol.18）から４年ぶりの刊行となり，そしてこれが最終号です。センターニュースのこれまでの歩みと，今回で廃刊となる経緯の説明には，高等教育開発センターそのものの発足から今日までを知っていただく必要があります。

本センターは2007年４月に大学附属施設として設置されました。その年の7月に発行されたセンターニュースの第１号には，当時の柴忠義学長の言葉で「本センターは，学士課程教育に対する要望を教職員，学生から幅広く吸収し，かつ，これまで各学部が独自で行ってきた教育力向上のための蓄積を結集しつつ，一層の充実を図るために研究・開発を推進し，その成果を全学的に共有化する役割を担います。」とセンターの役割が示されています。

しかし，この号で紹介されているように，発足時のセンター長，センター員は全て一般教育部の教員で占められていました。それ以外の学部教員のセンターへの関与は，センターとは別に設けられた「センター運営委員会」に，各学部から１名ずつが委員として参加する，という間接的なものでした。

その様な事情から，発足当時の高等教育開発センターは，「一般教育部の組織」と見られました。そのため，センターとしては「どの様な活動をしているかを一般教育部以外の学部教員に知ってもらう」ということが重要であり，「広報誌」としてのセンターニュースの果たす役割も大きなものでした。というより，「センターニュースによって各学部に対してＦＤ活動に有用な情報を提供する」ということがセンターに求められた役割の一つでしたので，センターニュースの刊行はセンターの活動そのものでした。

私自身もセンター員の一人だった時期があり，その間，センターニュースの編集にも携わりました。当時はセンターニュースの内容は編集担当者が割と自由に決められたので，たとえば，各学部の授業アンケートの比較（Vol.9, 2011），ベストティーチャーに選ばれた教員のインタビュー（Vol.12, 2012）などの特集を組みました。また，Vol.13 (2013) までは，巻末に「ＦＤのための必読書」と題した書評のコーナーがあり，私も何回か担当しました。短い書評を書くためにも書籍を一冊は読むので負担ではありましたが，やりがいを感じる作業でした。もちろんそれ以外に，センター主催の講演会などもセンターニュースに短く報じられました。

この様なセンターニュースですが，その役割を終えようとしています。遠因はセンターそのもののあり方の変化です。2013年度より，高等教育開発センターは各学部より原則１名がセンター員として参加する体制となり，センター会議も毎月開催されています。「センター運営委員会」は廃されました。そのため，もはや高等教育開発センターは「(学部から見て) 何をしているのかよくわからない組織」ではなくなり，活動の概要を全学的に報告する定期刊行物の必要性は徐々に低下していきました。そのことは，組織改変があってから最初のセンターニュース（Vol.14）が発行されるまで４年を閲していることからも窺われます。さらに，より直接の理由としては，今では講演会の内容は，叢書と動画公開により，センターニュースでの概要紹介よりもはるかに詳しく知ることができるようになり，また，各年度の活動報告も年報とホームページでより詳しくなされるようになってきたことがあります。

それらを勘案し，2022年12月の第74回センター会議において，センターニュースの廃刊が決まりました。役割を終えての終焉と言えます。もちろん，全学への情報提供の重要性はいささかも揺るぎませんので，他の媒体を活用して今まで以上に充実させていきます。

最後に，これまでのセンターニュースの刊行に携わった皆さま，特に今はセンターを離れた方たちへ，この場を借りてそのご尽力に御礼申し上げます。ありがとうございました。

2020～2023年度講演会概要

2019年度まで年に2回実施していたFD講演会については，新型コロナウイルス感染症（以下，「コロナ」）の流行により，2020年度は1回の開催となりました。2021年度以降は，社会情勢を鑑みつつ，オンラインを活用することで，2019年度までと同様，年2回の実施に戻すことができました。また，2022年度の後半及び2023年度からは，コロナ対策をしつつも，対面での開催をすることができました。

講演会については，過去のものも含め，教職員専用サイトに動画が公開されています。気になる講演会があった場合は，是非ご確認ください。

また，講演会ごとに叢書を作成しており，こちらも教職員専用サイトにデータが公開されています。講演会の内容を文字ベースでご確認いただけますので，詳細を知りたいものがありましたら，ご覧いただければ幸いです。

コロナ禍における授業実施方法に関する講演会

2020年12月25日（金）15時30分より，高等教育開発センター主催で，「コロナ禍における授業実施方法に関する講演会」が開催されました。今回の講演会は，コロナの流行下での開催ということもあり，本センター主催の講演会としては初めて，Zoomウェビナーを使用したオンライン開催となりました。

2019年の冬から突如始まったコロナへの対応は，2020年度も続き，授業の実施方法を「手探り」の状態で模索せざるを得ませんでした。2021年度もコロナ禍での教育を展開しなければならない状況であったため，次年度の授業の構築を始める2020年12月に今回の講演会を開催することになりました。

講演会では，看護学部，医療衛生学部，一般教育部の3つの部門から，それぞれ「遠隔授業」「対面による実習」「遠隔授業を支えるネットワークなどのサポート」について報告をいただきました。

半ば強引に始まったとも言えるオンライン授業でしたが，様々な手法や考え方をご講演いただき，一層教育効果の高い授業を構築するための参考になる講演会になりました。

LGBTに関する講演会「多様な性への理解～大学としてどう取り組むか」

2021年9月27日（月）14時00分より，高等教育開発センター主催者で，「LGBTに関する講演会『多様な性への理解～大学としてどう取り組むか』」が開催されました。今回の講演会は前回の講演会に引き続き，コロナ流行下の開催となったため，Zoomウェビナーを使用したオンライン開催となりました。

LGBTに関する講演会については，2018年2月5日に一度実施をしていますが，年月とともに社会を取り巻く状況が変化したことを踏まえ，今回同テーマで講演会を開催することとなりました。

講師には島根大学保健管理センターの河野美江先生をお呼びし，ジェンダーやセクシュアリティの視点に立った人権教育の重要性をご講演いただきました。河野先生は，大学の保健管理センターで性別違和を訴える学生の相談に対応し，学生や大学教職員への啓発，大学環境の改善に取り組んでおられます。講演では，「LGBTとは何か」というところから始まり，「クエスチョニング」や「SOGIE」などの説明，大学におけるLGBT学生・教職員への支援としてどういったことができるか等を，事例を踏まえて分かりやすくお話いただきました。

コロナ禍における授業実施方法に関する講演会

LGBTに関する講演会「多様な性への理解～大学としてどう取り組むか」

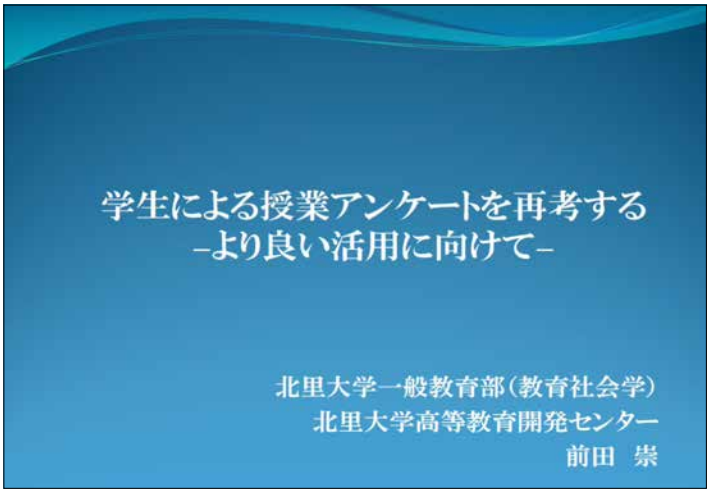
著作権法の授業目的公衆送信補償金制度の背景と概要

2022年2月14日（月）14時30分より，高等教育開発センター主催で，「著作権法の授業目的公衆送信補償金制度の背景と概要」が開催されました。今回も前回，前々回に引き続き，Zoomを利用したオンライン開催となりました。

2018年5月の法改正によって，授業目的公衆送信補償金制度が導入され，2021年度より本格的な運営が始まったことにより，授業実施における著作権や公衆送信権について，教員ひとりひとりの知識を深めるため，今回の講演会を開催することとなりました。

演者には東京経済大学の小島喜一郎先生をお呼びして，これまで著作権法にあまり馴染みのなかった方々に向けて，著作権の基本的な考え方から，授業目的公衆送信補償金制度ができた背景と概要をご講演いただきました。著作権という，授業を構成する上で避けては通れない事項を今一度詳しくご講演いただき，教育改善の一助となる講演会となりました。

著作権法の授業目的公衆送信補償金制度の背景と概要



学生による授業アンケートを再考する
—より良い活用に向けて—

学生による授業アンケートを再考する —より良い活用に向けて—

2022年7月27日（水）14時30分より，高等教育開発センター主催で「学生による授業アンケートを再考する—より良い活用に向けて—」が開催されました。過去3回，続けてオンライン開催となっていましたが，コロナ対策をしながらも，対面開催をすることができました。会場は相模原キャンパスのL2号館409講義室を主会場として，白金・十和田・新潟・北本キャンパスへ接続を行いました。

学生アンケート自体は，1990年代以降，大学評価の制度化に伴って実施する大学が急増し，現在は導入・拡大から，質的改善や活用方策を検討する段階に入ったと言えます。改めて学生アンケートのより良い活用方法を考えるきっかけとしていただくため，今回の講演会を開催することとなりました。

演者には，本学の一般教育部教員で，本センター員も務めておられる，前田崇先生をお呼びしました。前田先生は，本センターで毎年実施している「学修等に関するアンケート」を担当しており，教育社会学を専門とされています。講演では，学生アンケートの基本事項と一般的な活用方法を整理しつつ，その限界や批判についてもご紹介いただきました。学生による授業アンケートの結果を「どのように解釈すればよいか」，「どのように教育の改善につなげるべきか」についてご講演いただき，自身の教育を振り返る講演会となりました。

アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会

2023年2月20日（月）14時30分より，高等教育開発センター主催で「アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会」が，相模原キャンパスL2号館209講義室を主会場とし，白金・十和田・新潟・北本キャンパスを接続して開催されました。

2020年に開催した「コロナ禍における授業実施方法に関する講演会」から2年余り経ち，今回は「コロナ禍」から「アフターコロナ」に視点を変え，オンラインの利点を活用した授業の展開を見据えた事例報告会を開催しました。

演者には，様々な試みを続けている学部・教員の中から，薬学部教授の長光亨先生と，一般教育部講師の増本三香先生をお呼びし，アフターコロナを見据えた独自の取り組みを報告していただきました。

長光先生には，「薬学部のWeb授業に対する取り組みについて」と題し，薬学部がコロナ禍中にどのようにオンライン（Web）授業に対応してきたか，そのノウハウを活かし，アフ

アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会

東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから

ターコロナにどのように対応していくかをご報告いただきました。特に，対面授業を収録し，オンライン授業に使用するためのシステム構築について，当時の状況を踏まえながら分かりやすく説明いただきました。

増本先生には，「オンデマンド教材作成法と対面授業収録法」として，主にオンライン授業の際に必須となる，具体的な動画作成方法をご報告いただきました。コロナ禍の間，どのように授業を展開してきたか，学生にとってわかりやすいように動画を収録・編集をするにはどのような工夫が必要かを，実例を交えながらお話いただきました。

急速に変化する社会に応じて，どのように教育効果の高い授業を実施するか，課題解決の糸口となるような講演会となりました。

東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから

2023年7月25日（火）14時より，高等教育開発センター主催で「東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから」が，相模原キャンパスL2号館409講義室を主会場とし，白金・十和田・新潟・北本キャンパスを接続して開催されました。

本学は2022年度に「北里大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム」を設置し，2023年度に文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に申請し，認定を受けました。この機会に，改めて「数理・データサイエンス・AI」をどのように学生に教育すべきかを学ぶため，今回の講演会を開催することとなりました。

「数理・データサイエンス・AI教育」の先行事例として，演者に東京都市大学教授の河合孝純先生をお呼びして，東京都市大学ではどのように「数理・データサイエンス・AI教育」を行っているか，その効果的な教育方法をご講演いただきました。

講演では，実際に河合先生が担当されている授業を例示として挙げながら，東京都市大学での「数理・データサイエンス・AI教育」の在り方を教えていただくことができました。また，効果的なグループワークのやり方や，ツールなど，実践的な内容をご講演いただきました。

これからの社会を担う人材を育成するにあたり，本学の「数理・データサイエンス・AI教育」のこれからを考える機会となりました。

生成AIの仕組みと可能性，その利活用について

2023年8月22日（火）13時15分より，理学部・高等教育開発センター共催の「生成AIの仕組みと可能性，その利活用について」が開催されました。この講演会は，理学部のFD研修の一部として開催される予定でしたが，その内容の重要性から，高等教育開発センター共催という形で全学に向けて講演いただくこととなりました。

ChatGPTが2022年11月にリリースされたことにより，社会において急速に生成AIの利用が広がりを見せており，大学としてもその利用への対応が急務となっています。その対応方策を進める中で，まずは教職員が生成AIに対する正しい知識を持つことが不可欠であることから，今回の講演会を共催という形で開催いたしました。

慶應義塾大学教授（本学未来工学部特任教授）の榊原康文先生が演者となり，生成AIの基本的な仕組みと可能性，今後考えられる利活用の現場などをご講演いただきました。

北里大学高等教育開発センター講演会　過年度開催内容一覧

回	開催日	演　題	演　者	演者所属等（講演当時）	参加者数
1	2007年９月10日	大学教育の再構築に向けて	寺﨑　昌男	立教大学調査役，東京大学 名誉教授，大学教育学会長	235名
2	2008年２月25日	初年次教育の展開とその課題	安永　悟	久留米大学文学部 教授，日本協同教育学会長	不明
3	2008年７月28日	教育目標・人材目標を掘り下げる	鈴木　敏之	東京大学本部統括長（経営・企画系）	136名
			石井　邦雄	北里大学薬学部 教授，北里大学点検・評価室長	
4	2008年８月26日	教育著作権 －大学等における情報技術活用教育と著作権－	尾崎　史郎	独立行政法人メディア教育開発センター 教授	101名
5	2009年７月31日	大学教員の能力開発 －教育と研究と学問的誠実性－	羽田　貴史	東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部長・教授	90名
6	2010年５月25日	教育の質向上を目指して －３つのポリシーの策定とその実現方策－	沖　裕貴	立命館大学教育開発推進機構 教授	148名
7	2011年５月23日	大学教育の実質化と新大学評価システム	生和　秀敏	財団法人大学基準協会・特任研究員	106名
8	2012年７月13日	学習の質をどう評価するか －医療教育におけるパフォーマンス評価を中心に－	松下　佳代	京都大学高等教育研究開発推進センター 教授	93名
9	2012年12月12日	単位制度をめぐる背景と課題	森　利枝	大学評価・学位授与機構研究開発部 准教授	125名
10	2013年３月５日	アウトカム基盤型教育におけるカリキュラムマップとGPA －千葉大学医学部の取り組み－	田邊　政裕	千葉大学医学研究院・医学部 教授	58名 (参加者指定)
11	2013年11月7日	My Teachingをどのようにデザインし改善するか －授業評価の有効な活用方法とは－	渡邉　洋子	京都大学大学院教育学研究科生涯教育学講座 准教授	93名
12	2015年２月27日	学生の学ぶ意欲を引き出すのはあなた！ ～教える側が見逃していること～	市川　伸一	東京大学 大学院教育学研究科 教育心理学コース 教授	184名
13	2015年９月30日	改めて「学生による授業評価」を考える －より良い活用のために－	山地　弘起	長崎大学 大学教育イノベーションセンター 教育改善部門長・教授	128名
			※基調講演後，各学部等教育委員長･FD委員長からの事例紹介		
14	2015年12月22日	学生の適応をどう支援するか ～成績不振，精神的悩み，障害を持つ学生の理解と対応について～	吉武　清實	東北大学 高度教養教育 ・ 学生支援機構 学生支援開発部門 臨床教育開発室 教授	134名
15	2017年１月23日	メンタル面での障がいを持った学生に対する支援体制 ※研修会の基調講演・事例紹介	田ヶ谷浩邦	北里大学医療衛生学部健康科学科精神保健学 教授	53名 (参加者指定)
			山田　裕子	北里大学健康管理センター学生相談室 准教授	
16	2017年７月12日	学生自死予防のための研修会	本橋　豊	国立精神 ・ 神経医療研究センター精神保健研究所 自殺総合対策推進センター長	315名
17	2017年11月29日	IR（Institutional Research）の必要性とその役割	前田　崇	北里大学一般教育部講師･高等教育開発センター員	69名
			森　武昭	神奈川工科大学名誉教授・特命教授 IR・企画推進室 室長	
			帯川ひろみ	神奈川工科大学IR・企画推進室 IR研究主幹	
18	2018年２月５日	LGBT学生への支援体制	日高　庸晴	宝塚大学看護学部 教授　日本思春期学会 理事 厚生労働省エイズ動向委員会 委員	152名
19	2018年11月６日	IR活用のヒント　～教育・学生指導に関してどのようなデータを集め活用しているか～	小山友里江	北里大学看護学部 教授	62名
			緒形　雅則	北里大学医療衛生学部 准教授	
			高野　保真	北里大学一般教育部 講師	
20	2019年２月27日	学修成果の可視化とアセスメント・ポリシー	岡田　聡志	千葉大学アカデミック・リンク・センター 副センター長・准教授	90名

回	開催日	演　題	演　者	演者所属等（講演当時）	参加者数
21	2019年７月２日	FD・SDシンポジウム	天野　勝文	北里大学海洋生命科学部 FD委員長・教授	63名
			石川　春樹	北里大学理学部 FD委員長・教授	
			高橋　博之	北里大学医療衛生学部 FD委員長・教授	
22	2020年２月26日	大学の情報セキュリティ ～サイバー攻撃の脅威はどこまで大学に迫っているのか～	上原哲太郎	立命館大学情報理工学部 教授	75名
23	2020年12月25日	コロナ禍における授業実施方法に関する講演会	小山友里江	北里大学看護学部教授	62名
			緒形　雅則	北里大学医療衛生学部准教授	
			高野　保真	北里大学一般教育部講師	
24	2021年９月27日	LGBTに関する講演会 「多様な性への理解～大学としてどう取り組むか」	河野　美江	島根大学 学長特別補佐（ダイバーシティ推進担当）保健管理センター 教授	47名
25	2022年２月14日	著作権法の授業目的公衆送信補償金制度の背景と概要	小島喜一郎	東京経済大学経営学部 准教授	39名
26	2022年７月27日	学生による授業アンケートを再考する －より良い活用に向けて－	前田　崇	北里大学一般教育部准教授	50名
27	2023年２月20日	アフターコロナを見据えたオンライン授業に係る事例報告会	長光　亨	北里大学薬学部教授教授	51名
			増本　三香	北里大学一般教育部講師	
28	2023年７月25日	東京都市大学でのデータサイエンスリテラシー教育の取り組みとこれから	河合　孝純	東京都市大学デザイン・データ科学部	49名
29	2023年８月22日	生成AIの仕組みと可能性，その利活用について	榊原　康文	慶應義塾大学 理工学部生命情報学科 (北里大学 未来工学部特任教授，2025年度着任予定)	17名 ※理学部出席者は除く

高等教育開発センター活動概要

高等教育開発センターが行っている活動の概要をまとめました。詳細は毎年度発行している年報に掲載されています。高等教育開発センターホームページに過去の年度のものも公開されていますので，是非ご確認ください。

センターニュースは今号が最終号となりますが，高等教育開発センターは引き続き，教育活動の継続的な改善推進及び支援を続けて参ります。

全学FD講演会の実施

年に1～2回程度，全学のFD活動として，講演会等を実施しています。講演会のテーマは，開催時の社会情勢や喫緊の課題を元に選定を行っており，教員の皆さんの教育活動の改善に役立つものを提供できるよう尽力しております。

講演会の開催時期は，各学部の会議や講義室の空き状況から，毎年7月と2月に行われることが多く，テスト期間等と被り，当日参加いただけない方もおられると思います。そんな方のために,「教職員専用サイト」にて，当日の様子を収録した動画と，内容をまとめた叢書を提供しています。動画については，一定の期間に動画を視聴し，出席票を提出いただいた方は，同講演会に参加したと見なす方式を取っています。また，叢書は各講演会で収録した音声を文字起こししたものをベースに，可能な限り，当日の講演中のスライドも掲載しています。

日々の教育活動の中で,「こういう時どうしたら？」と疑問に感じたテーマについては，本センターの過去の講演会で取り扱っている場合もあります。是非一度確認してみてください。

教育支援システムMoodleの提供

高等教育開発センターでは，設置されて以来，学内向けに教育支援システムMoodleを提供しています。Moodleは，教員からは授業資料の提供やアンケート等の実施，学生からは課題の提出などができるシステムです。コロナ禍前から提供をしていましたが，コロナ禍となり，オンライン授業が始まると，一時的にかなりの方が利用し，ファイルサイズ等の制限をすることとなりました。

学部によって利用するシステムも様々ですが，Moodleに関しては，「医学部」「医療衛生学部」「一般教育部」で活発に利用されていたようです。多くの方にご利用いただいていたMoodleですが，ユーザ管理に利用していたICT推進センターの所有するサーバの保守期限が切れることから，運用を続けていくことが困難となり，2023年度末を以て提供を終了することとなりました。

今後，全学で利用する教育支援システムを統一する動きがあります。高等教育開発センターで提供するMoodleの運用は終了しますが，教育を支援する学内基盤として，教育支援システムに関する情報の収集や提供を行っていきたいと考えています。

新任教員研修の開催

毎年8月に，人事部と共催で，本学教員としての使命と役割を理解し，学生の期待に応え得る教員としての基本的な技能・態度を身に付けることを目的とした新任教員研修を開催しています。前年度4月2日から当該年度の4月1日までに採用された専任教育職員のうち，准教授・講師・助教・助手が対象となります。

研修は2日間行われ，1日目は人事部が担当し，2日目を高等教育開発センターが担当します。

プログラムとしては，午前中に「FD講義・演習」として，健康管理センターから講師をお呼びして，「最近の学生気質と学生相談の傾向」などの題目で講演をしていただきます。その後，「学生とどう向き合うか」をテーマとしたFDワークショップを行います。

FDワークショップでは，情報提供として，本センターが毎年実施している「学修等に関するアンケート」を元に，「学生調査結果に見る本学の学生像」などをセンター員が解説します。午後はこれまでの経験をふりかえり，学生と向き合ううえでの問題点と解決策をグループワークで話し合います。他学部の教員と話をする機会が少ないため，新任教員研修におけるグループワークは，自身の悩みや情報を共有する良い機会となっています。

毎年白金キャンパスにて対面で開催されていましたが，2020年度から2022年度までは，コロナ禍の影響によりオンライン開催となりました。2020年度は急遽オンライン開催となったことからグループワークは中止となりましたが，2021年度からはZoomのブレイクアウトルーム機能やGoogleジャムボードを利用して，オンライン開催でもグループワークを行うことができました。また，2023年度からは感染対策を講じた上で，対面で開催をしています。

学修等に関するアンケートの実施

高等教育開発センターでは，2009年度より，毎年11月頃から1月末頃までを回答期間として，本学の全学部生を対象に「学修等に関するアンケート」を実施しています。このアンケートは，学生の学習，大学生活の実態と意識を調査分析し，教学運営や学内生活環境改善のための基礎資料とするために実施されているものです。

アンケートの集計及び分析結果については，毎年北里大学教育委員会にて報告を行っており，学部はその報告を元に，教育活動の改善を検討しています。また，集計表や分析結果は，高等教育開発センターホームページでも公開され，皆さんにフィードバックをしています。

従来は紙でアンケート用紙を配付していましたが，2021年度実施分からGoogleフォームを利用したWeb調査となりました。紙で実施していた時に比べ，回収率が10～20％程度落ち込んでしまったため，2022年度からは，アンケート回答者の中から抽選で謝礼を贈呈することといたしました。より学生に寄り添った教学運営に向けた，改善検討の基盤とするべく，今後は回収率向上を目標に実施していきたいと考えています。

編　集　後　記

本誌は，学内でまだＦＤなどの言葉もそれほど普及していない，高等教育開発センターが設置された2007年から，活動報告の場として継続的に発行されてきました。2019年の年末に発生した感染症の問題の影響で一時的に発行を停止していましたが，その間にも，当センターでは，講演会や学生アンケートの実施，新任教員研修，教育支援システムの提供など，様々な活動をしてきました。約４年ぶりの発行となる今号では，これらの活動をまとめて紹介しています。学内での当センターの認知も進んだため，センターニュースの発行は今号で最後とすることにしました。今後も当センターでは皆様の役に立つ活動を継続していきますので，今後ともよろしくお願いいたします。

（高橋）

北里大学高等教育開発センターニュース
Center for Development of Higher Education, Kitasato University NEWS
Vol.19
発行日　2024年２月８日
発　行　北里大学高等教育開発センター
〒252-0373 神奈川県相模原市南区北里1-15-1
Mail：cdhe@kitasato-u.ac.jp
発行責任者　江川　徹
表紙絵：古矢　鉄矢
北里大学高等教育開発センター Webサイト
https://www.kitasato-u.ac.jp/cdhe/